

かわさきしちょうかくしょうがいしゃじょうほうぶんか

川崎市聴覚障害者情報文化センターだより

新年のご挨拶 - 2018年(平成30年)の新年を迎えて -

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、平成30年の清々しい元旦をお迎えになられたことと存じます。

昨年中は、川崎市聴覚障害者情報文化センターの事業に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

昨年は補聴器とコミュニケーションの講座の開催回数の拡大、川崎市総合防災訓練の全体会議や作業部会への出席、中原区役所(危機管理室、地域ケア推進担当)との連携による聴覚障害の理解促進等、地域への支援の広がりを感じた年でありました。

これは川崎市行政、関係団体等の地道な取り組みの積み重ねにより、当センターへの協力依頼の要請が少しずつ増えてきています。

当センターは手話通訳者・要約筆記者を派遣する事業所であると同時に、

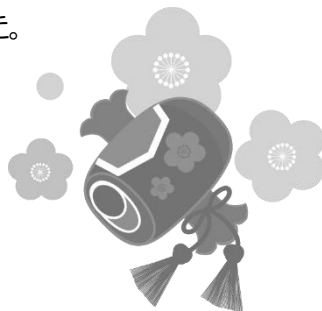
聴覚障害者に対する理解を広げ、聴覚障害者が地域の中で安心した暮らしを作っていくための事業所でもあります。

それらの期待に応えられるよう関係団体の皆様のご支援とご協力をいただきながら、聴覚障害者福祉向上のための事業を実施して参りたいと思います。

本年も職員一同、聴覚障害者の社会参加を積極的に推し進め、さらに聴覚障害者の生活と権利を守ることができるよう努めて参りたいと思いますので、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、みなさまのご多幸とご健康を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

施設長 尾上 秀夫



平成30年度 第11回センターまつり予告

毎年皆さんが楽しみにしている川崎市聴覚障害者情報文化センターまつり(以下、センターまつり)。今年5月27日(日)に開催することが決定しました。

センターまつり開催の目的は以下の2つです。

- ①川崎市聴覚障害者情報文化センターの存在や、提供している福祉サービス等を一般市民に知っていただく
- ②一般市民に利用団体の活動紹介をすると同時に、交流を深める

特別講演会は、聴覚障害がある当事者の議員2名(東京都北区議会議員 齊藤りえ様・埼玉県戸田市議会議員 佐藤太信様)を講師にお迎えする予定です。また、補聴器相談や弁護士相談、医療相談・情報提供コーナーの他、福祉機器展、模擬店、人形劇団のパフォーマンスなどなど多くの企画を予定しています。

参加費は無料、どなたでも参加できます。皆さまのご参加をお待ちしております!



写真は今年のセンターまつりの様子です

● 1月7日(日) 第4回聴覚障害者福祉講座報告 ●



取り組んだ内容を発表している場面
区ごとに特色が出ていて、面白かったです

1月7日(日)、川崎市大山街道ふるさと館にて、今年度4回目となる聴覚障害者福祉講座を行いました。これは、10月29日に台風接近により延期となった講座で、年明け最初の日曜日にもかかわらず、57名の参加をいただきました。今年度の聴覚障害者災害訓練では、初の試みとして、各区独自のプログラムを取り入れていただきました。他区の取り組み内容を聞くことで、今後、訓練を企画する際や有事の際に役立つ情報も得られたのではないのでしょうか。

● 1月21日(日) 第5回聴覚障害者福祉講座報告 ●

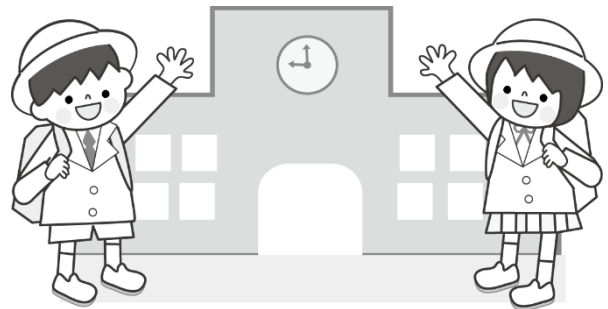
1月21日(日)に今年度最後の聴覚障害者福祉講座を開催しました。

テーマは昨年に引き続き2回目となる、小・中学校の生徒たちに聴覚障害者理解を促すための取り組み(総合学習の時間)を取り上げました。川崎区・幸区のろう協と手話サークルの皆さまが、日頃どのように工夫をしながら総合学習の授業を行っているのか、実演およびビデオ上映も交えて発表していただき、その後は、グループに別れての話し合いを行いました。

単に「手話」を教えて終わりではなく、聴覚障害者と出会ったときにどう接すれば良いか、という聴覚

障害者理解を広める視点で皆さん授業を行っていらっしゃる様子でした。

好評のようですので、このテーマで引き続いて開催していく予定です。



● 補聴器とコミュニケーションの講座 麻生区で実施 ●

平成30年2月9日～23日の3週間にわたり、毎週金曜日午後1時半～3時半の全3回、「補聴器とコミュニケーションの講座」を麻生老人福祉センター(いきいきセンター)で開催しました。当初予定していた2月2日の第1回は雪が予測され中止しました。麻生区での開催は初めてです。これまで情文センターにはなかなか遠くへ行けなかった地域の方も参加していただきました。もちろん麻生区以外の住民の方も参加されました。



麻生老人福祉センターで開催した時の様子

3回の講座の内容は i) 補聴器講座として、補聴器のしくみや難聴の事、福祉の制度の事などの講義を聞きます。講座には要約筆記が付き、ヒアリングループを敷き受信機も貸し出しますので、自分の聞こえ具合に合わせて聞こえを補う準備もあります。

ii) 聞こえを補うコミュニケーション方法である読話や手話の体験をします。難聴者とその家族の体験談もあります。

iii) 聞こえを補う福祉機器の紹介です。テレビの音量、電話の音量、呼び出しなど生活のいろいろな場面で役立つ機器を紹介しました。

当事者団体である(特非)川崎市中途失聴・難聴者協会の活動も説明します。情文センターの事業についての話もあります。

聞こえの不安を放置しないでください。今後も市内各地でこの講座を展開していきます。周りの方にぜひPRをお願いします。

● 武蔵小杉駅周辺帰宅困難者対策訓練 ●

11月14日に、今年初めてとなる「武蔵小杉駅周辺帰宅困難者対策訓練」に参加しました。この訓練は災害時に電車がストップし、多くの方が家に帰れず、駅にたくさんの方があふれてしまう事態を想定した訓練で、駅員の方や近隣の商業施設の方や、地域住民の方々に混じり、ろう者・難聴者・サークル員、センター職員も参加しました。

駅から一時滞在施設への避難誘導を受ける際に、通訳なしで聴覚障害者が情報を受け取り行動できるか、を検証することを目的に行いました。駅員さんの説明は、イラスト入りのマップを使うなどの工夫があり、またこの日は訓練ということもあって、皆さん事前にどう行動するかもわかっていたため、特に問題は起きませんでした。ただ、一時滞在施設の準備が整うまで待機、という説明が聴覚障害者には届かず、どうして今ここで待たされているのだろうか、と疑問のままの待機となりました。

一時滞在施設への避難終了後は、聴覚障害者についての簡単なレクチャーをろうあ者相談員が行いました。



駅にたくさんの方があふれている様子



イラスト入りマップなどが掲示されています



健康学習会の一場面
日頃の健康を振り返る良い機会になっています



グループディスカッションで話し合った内容の発表

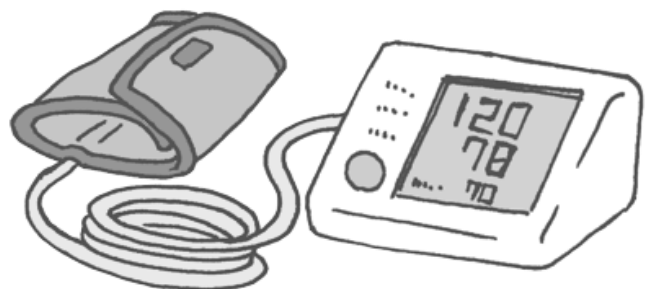
● ろう者・難聴者のための健康学習会 ●

今回で15年目を迎える学習会です。今年のテーマは「血圧の基本のキホン」。

中原区役所の医師である近藤剛史先生に講話をしていただきました。70枚を超えるスライドで聞こえない参加者にも目で見てよくわかるお話で大変わかりやすいと好評でした。

講話を聞いた後は3グループに分かれグループワークをし、その結果を発表しました。血圧をあげないために出来る事、食事や運動について意見を出しあいました。酢玉ねぎ、納豆に酢や牛乳を入れる醤油を使わずにんにくを何にでも入れるなどユニークな健康法も出ていました。

ろう者11名、難聴者7名の参加でした。市政だよりで広報した効果があり、この学習会がきっかけで情文センターに初めて来られるという方もいました。



● 手話通訳者養成講座〈通訳Ⅲ〉閉講の報告 ●

11月5日(日)手話通訳者養成講座〈通訳Ⅲ〉が最終日を迎え、8名の方が修了されました。川崎市では初めての通訳Ⅲ開講。全5日間のうち、10月の毎週末にやってきた台風の影響であいにく休講となる日もありました。講師のご協力をいただき、補講も行いましたが、予定していた通訳現場の見学が中止となったことはとても残念だったと受講生の声が多く聞かれました。再受講の方も含めて10名の皆さん、おつかれさまでした!

● 受講生募集のお知らせ ●

■手話奉仕員養成講座〈入門編〉

【多摩区コース】

開講期間:

平成30年5月22日(火)~9月11日(火)

日 時:毎週火曜日 18:30~20:30

場 所:福祉パルたま

【川崎区コース】

開講期間:

平成30年5月31日(木)~9月20日(木)

日 時:毎週木曜日 18:30~20:30

場 所:福祉パルかわさき

■要約筆記者養成講座

開講期間:平成30年5月18日(金)~

平成31年1月25日(金)

日 時:毎週金曜日

手書き/10:00~12:00

パソコン/13:30~15:30

場 所:川崎市聴覚障害者情報文化センター

講座の詳細やお申込み方法については、近日中に当センターのHPに掲載いたしますので、そちらをご覧ください。皆さまの積極的なご応募、お待ちしております。

◎お問い合わせ先◎

(社福) 神奈川聴覚障害者総合福祉協会

川崎市聴覚障害者情報文化センター

手話奉仕員養成講座担当

TEL:044-798-8800

FAX:044-798-8803

要約筆記者養成講座担当

TEL:044-798-8800

FAX:044-798-8804

● 統一試験実施の報告 ●

平成29年12月2日(土)、当センターを会場として「手話通訳者全国統一試験」を実施しました。受験者は12名。通訳Ⅲ修了者全員が受験しました。受講生をはじめ、通訳Ⅲの講師担当者、そして統一試験対策講座でご協力いただいた川ろう協、川通団の皆さま、本当にお疲れさまでした。

●登録手話通訳者現任研修(12月) ●

沖縄から川上恵さんを講師にむかえ、「ろう通訳の役割と今思うこと」のテーマで研修会を実施しました。

川上さんは、米国でろう通訳士の認定を受け、現在は沖縄聴覚障害者情報センターで職員として、また盲ろう通訳・介助者としても活躍されています。当日は、資格を取得するまでの過程や米国の養成カリキュラムの内容、また通訳をする上での留意点などお話しいただき、たいへん密度の濃い研修会になりました。

日本では、「ろう通訳」を目にする機会はまだまだ少なく、手話通訳と聞いて、ろう者を浮かべることはまずありません。川上さんのお話を聞き、大切なことは「誰が通訳をするか」ではなく、「対象者やその場面の目的に沿った通訳者の母語は何か」ということだと改めて気づくことができました。“手話は言語である”という基本に立ち返り、もう一度「通訳とは」を考える貴重な時間となりました。

● 障害福祉課主催 川崎市職員 聴覚障害研修 ●

この研修は平成20年から続けている研修です。当初は福祉事務所の障害担当の方を対象に行っていましたが、市の職員で、聴覚障害者に対応するのは福祉事務所の方だけではないということで範囲を徐々に広げ今年度は全庁に呼びかけが行われました。川崎が今進めている「かわさきパラムーブメント」や2020年のオリンピック・パラリンピック、あるいは障害者差別解消法、手話言語条例等々の影響か、様々な部門・職種の方34名の出席がありました。

センターの施設見学と「私の大切な家族」(ビデオ)の視聴、聴覚障害といっても個人個人違うことやろうと難聴の違い、意思疎通支援事業について、聞こえない方とのコミュニケーションの方法など盛りだくさんの内容の3時間の研修でした。

受講者の感想には「ろうの方で日本語が苦手な人がいるとは知らなかった」「学んだ事を業務に役立てたい」「仕事を通して同じ聞こえない市民がもっと住みやすい市になれるようがんばりたい」など、新たな気づきや今後の対応に期待できる内容が見られました。

● 要約筆記者現任研修 報告 ●

1月14日(日)、情報文化センター研修室にて要約筆記者現任研修を実施しました。全日本難聴者・中途失聴者団体連合会の新谷友良理事長をお迎えして「聴覚障害者情報提供施設(以下:情提)の今日的役割」というテーマでご講義いただきました。講義は「中途失聴・難聴者の求めるもの」と「情提に求めるもの」の2点で進められました。特に、聞こえの回復(聴力相談など)のニーズに対応している情提が少ないという現状に耳が痛い思いをしましたが、情提が聴覚障害者の一番の理解者となり、聴覚障害理解を広める役割があることを改めて学ぶことができました。この研修で学び、感じられたことを今後の活動に活かしていただきたいと思います。



● 聴覚障害者相談担当者研修会 ●

神奈川県聴覚障害者協会主催の「聴覚障害者相談担当者研修会」の講師を、難聴者相談員、コミュニケーションワーカーが担当しました。この研修会を担当させていただくのは昨年度に引き続き2回目です。支援を展開する際、聴覚障害ゆえに起こってくる問題について、事例検討というスタイルで行いました。終了後のアンケートの中には「職務で聴覚障害がある市民の方と接するにあたり、自分が疑問に思っていたことが実際のケースで出てきて、とても勉強になった」という行政職員の方もいました。ろう教育の背景や手話と日本語が別言語であることなどについて、知っているのと知らないのでは、対応が大きく異なってしまいます。また、ろう者と難聴者を「聴覚障害者」という枠で一括りにしてしまうことも、現場では起こりがちです。場合によっては、大きな誤解や行き違いが生まれることもあるでしょう。地道な啓発活動が必要だと感じた研修会でした。

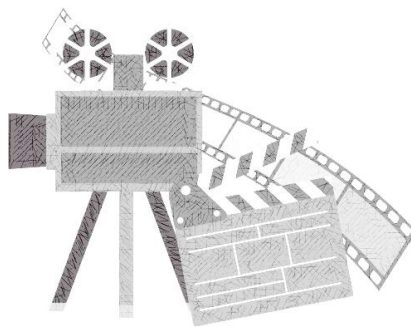
● 平成29年度聴覚障害者向けソフト制作担当職員研修会の報告 ●

平成29年11月8日(水)~11月10日(金)に岡山県聴覚障害者センターにて。

電話リレーサービスの動向や情報提供施設における遠隔手話通訳サービス、アイトラゴン4の詳細について、映像制作の現場でよく使われる用語の手話化や、岡山の自主制作の取り組みの報告、そして基礎コースと応用コースに分かれて編集技術の習得、最後にグループ討議と盛りだくさんでした。

特に電話リレーサービスの制度化に向け、通信サービスの体制がまだ整っていないため、当面の間は福祉サービスとして情報提供施設が担ってゆき、体制が整い次第、通信サービスの方へ引き継ぐという話が印象に残りました。

ソフト制作担当者が遠隔手話通訳などのサービスに必要な機器の使い方をレクチャーしたり、講座を開いたりしていると聞いて、ICT支援員のような面もあるのだと感じました。



● 関東ブロック映像制作担当者研修会の報告 ●

平成30年1月30日(火)に山梨県立聴覚障害者情報センターで開催しました。内容は、山梨県名産品の信玄餅の紹介のシーンをカメラ撮影から編集し、字幕入れまでを行うというものでした。

山梨県聴覚障害者情報センターの映像制作担当職員がシナリオを作ってくださり、実際にろう職員がその通りに信玄餅を紹介し、食べるシーンの撮影を行いました。撮影中に予想外の事が起こり、スムーズにいきませんでした。このことを踏まえ、撮影を行うには十分な事前準備が必要だと身をもって経験できました。

撮影したものを編集機に取り込み、タイトル作成から字幕取り込みまで実際に機器を使いながら、普段どのようにして編集作業を行っているか、お互いに情報を交換しあう事ができました。

最後の情報交換会は、各施設のHPの動画など映像の活用状況など活発な質疑応答がありました。映像をどのように活用するかが今後の課題だと感じた研修でした。

● 実習生受け入れ ●

1月に国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科の2年生がセンターで実習を行いました。(特非)川崎市ろう者協会のろう高齢者ミニデイサービス『なののわ』や(特非)川崎市中途失聴・難聴者協会の手話勉強会、読話勉強会等、関係団体の行事、勉強会への参加を多く取り入れ、交流を通しての学習で15日間を終えられました。今後のご活躍を願っています。

ビデオ通信 64

●センターよりお知らせ



貸出ベスト5

(平成29年10月1日から平成29年12月31日現在)

順位	ジャンル別	本数
1位	センター制作分	113本
2位	手話学習	62本
3位	教育・教材、手話	それぞれ17本
4位	記録・報道	15本
5位	趣味・教養	13本

●データ紹介

	10月	11月	12月	合計
来所者数	1,654	1,266	1,181	4,101
ビデオ貸出数	88 (54)	105 (10)	70 (49)	263 (113)

※ビデオ貸出数の下の()内の数は、センター制作分の貸出数です。

●HPに掲載したい手話及び要約筆記の勉強会や講習会の情報がありましたら、ご一報ください。

HPのアドレス <http://www.joubun.net/>

☆積極的な情報提供、お待ちしております。☆

●センターおすすめDVDの紹介

おしえてタモちゃん! ~合理的配慮ってなに?~

制作著作：特定非営利活動法人

全国聴覚障害者情報提供施設協議会

助成：全国生活協同組合連合会

全国労働者共済生活協同組合連合会

2016年4月にスタートした障害者差別解消法および改正障害者雇用促進法における「合理的配慮」について、わかりやすく解説したDVDです。当センターにて貸出を行っていますので、興味のある方はぜひご覧ください。

※当センターに駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用下さい。



ツイッター 時々つぶやいています☆

<https://twitter.com/DKawasakiJoubun>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/Dkawasakijoubun>

<休館日のお知らせ>

休館日は毎週月曜日と祝祭日です。
月曜日が祝祭日の場合は、翌日の火曜日も休みとなります。(■ 休館日)

平成30年2月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

平成30年3月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

平成30年4月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

平成30年5月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

【編集後記】

川崎市に関するネタを探すため色々ネットを見ていたら、池田満寿夫(いけだますお)氏の名前が。美術界で世界的に有名な方ですが、なんと麻生区王禅寺の真宗寺・川崎霊園の鐘楼堂の梵鐘のデザインを手掛けたそうです。びっくり!!! その梵鐘の名前が『しあわせの鐘』で池田満寿夫さんご本人が命名したそうです。世界的に有名な芸術家が梵鐘のデザインをするのは大変珍しいので、ぜひ一度見に行つてははいかがでしょうか。(O.S)